

令和5年度 第8回香美市教育振興基本計画検討委員会

日 時 令和5年12月5日(火) 18:00~20:00
場 所 香美市立中央公民館2階研修室
出 欠 委員14名中10名参加
傍聴者 0名

内 容

1 開会

【議題】

- ① 次期教育振興基本計画素案
- ② その他

2 閉会

開会

14人中10人の出席

教育長あいさつ

白川教育長 皆さま、こんばんは。師走になりまして皆さまそれぞれに一層多忙にしているところではないかと推察いたしますけれども、そういうお忙しいところ本日もご参加いただきまして本当にありがとうございます。少し寒くなってまいりました。会場も少し狭くしております。暖かいかなということもございまして少し空間が狭い中での会議になりますので、ご不便をおかけすることがあろうかと思っておりますけれども、ご審議のほどよろしく願いいたします。

第2期香美市教育振興基本計画の第8回目となりまして、前回11月にご協議いただいた変更点等につきまして精査をいたしましたものを皆さま方に素案として提供させていただいております。本日ここで一定の方向性のまとめをさせていただきます。1月にパブリックコメントによって多くの市民の方々、関係者の皆さまからご意見を応募するということに進んでいく予定でございます。したがって、そういった方向性で本日はまとめに入っていくというところをしっかりとご審議をいただき解決していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局

それでは早速、会議に早速入りたいと思っております。本検討委員会設置要綱第6条の規定によりまして、会議の議長は委員長が務めると定められておりますので、議長を中村委員長にお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

中村委員長　それでは早速、議題1の方から進めたいと思いますが、先ほど説明があったように、本日は前回の会議でいろいろご意見をいただいたところが、どれぐらい反映されているかということを中心に議論をしていけばいいのかなというふうに思っていますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。それでは、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局　本日は、皆さまにお配りをしております資料を使いまして、担当者から計画素案について、ご説明させていただきます。その後に委員の皆さまからご意見を伺いたいと思います。

事務局説明

中村委員長　説明ありがとうございます。それでは、皆さんの方からご意見、ご質問等伺いたいと思いますのでよろしくをお願いします。

福田委員　1ページ、図書館サービスの充実が入ったというのは非常にいいことだと思います。その指標として貸出件数だけが出ているのが個人的には違和感があります。図書館はいろんな楽しみ方があっていいと思うので、本をいっぱい借りてほしいという思いは分かるんですけど、どれだけ人が来てくれているかのような入館者数であるとか、そんなことも入っていいのかなと個人的には思うんです。僕も図書館は好きですけど、僕は借りない派なんですよ、自分のポリシーとして。欲しい本は置いておきたいので買うんですよ。困ってるんですよ。図書館へ行ってくれませんか。悪いですけど読んだ本を置いておきたいという派なので、図書館で図鑑とか見て、買えない本はそうやって見るんですけど。なので、図書館にそういう目的で行かれる方も多いと思うので、ちょっと貸出件数だけとかいうのは。なかなかこれを伸ばすのは大変だと思うので、入館者数とか、そういうのもあるといいのかなと個人的には思いました。以上です。

事務局　入館者は期待以上に増えておりますので、ただ貸出件数の方が他の地区と比べると少ないというのがありますので、あえてここに冊数を載せさせてもらったという部分もあります。

福田委員　他の地区と比べて入館者数はどうなんですか。

事務局　利用は多いです。

福田委員　自慢することを書いて、悪いところを直すというのは。

事務局　分かりました。ちょっとまた相談します。

中村委員長　表現の仕方ですね。どういうふうを書くかという。昨年度以降一年間経って、期待値以上の成果が出ているんだけど、それをさらに推し進めていこうとするような書き方にして、貸出件数の方はそれほど伸びていないので、その部分を併せて香美市が目指している方向性とか、教養のあるまちになるようにということを書いていったらいいのではないのでしょうか。

事務局　はい、分かりました。

- 中村委員長 他にございませんか。
- 市原委員 1枚目(1)の指標③の下のアンケート実施の質問紙の内容なんですけれども、職員が特別支援教育について理解し、工夫改善を行ったかという、2つのことを問われているわけですけど、あまり2つのことを問うというのは質問紙調査の方ではないかなと思うんですけど。これを聞きたいのだったら切り分けて聞いた方がいいのではないかなと思いますけれども。
- 中村委員長 ありがとうございます。切り分けていただきたいと思います。
- 高橋委員 学校の調査と併せて上に載せるのだったら、これを同じように線を引いて、それに合わせた形でこういうふうに同時に取ったのではないかなと思ったんですけど。
- 市原委員 初任者の理解ということですかね。
- 白川教育長 理解の度合いがきっと違いますよね。
- 高橋委員 今、大学の方でもこういった●●の授業の中でしているところは結構あります。
- 市原委員 聞きたいのは、これは環境整備ということですよ。理解した前提でととしてどうかですよ。
- 中村委員長 環境を含めて考えないといけないということですかね。
- 福田委員 今のところを聞きたいんですけど、学調に合わせたというのは分かりました、それでいいと思います。学校の方は理解して授業の中で指導と工夫をしましたか、なので丸が1つ入るんですけど、「理解して」ここまではいいんですけど、園児の特性に応じた環境や支援、環境というのはこの場合、何を指すんですか。先生のできることを指しているのでしょうか。支援の工夫ということは先生のできることで、環境といわれると施設設備のこともあるでしょうし、環境という言葉はなかなか、先生個人にできることだったら、お散歩をするときに2人とか3人にするか、そんなことかもしれないですけど、この環境は何をすればいいのだろうと自分の立場だったら、そう思ってしまうかなというところがちょっとあります。
- 事務局 大きなハード整備とかいう考え方ではなくて日ごろのサポート、例えば見やすく時計を置くとか、そういう運営の中での工夫のための環境整備に対する工夫というような。
- 福田委員 これは先生個人ですよ。
- 山下委員 それは各子どもによって、例えば視覚支援が入っている場合は写真だったり、絵だったり、文字だったり、何が入るかということで、そういう環境だと私はとったんですけど、それが1つは支援の工夫になるとは思いますが。
- 福田委員 支援がかなり大きい言葉なので環境といえば何かというと、施設であるとか、いろんな物であるとか、個人の先生というより市とも一緒になって園長先生に頑張ってもらわないといけないこともある、そこまで読んでしまったのでちょっと分かりにくいかなと思ったんです。これで先生方が何も問題なく丸を付けていたらいいんですけど、僕だったらちょっと迷うかなと思ったので。

山下委員 現場で働いている者とすれば、ここの部分だけを読んで環境といたら、そういうさっき言っていただいたみたいな●●というふうにはとったと思いますけど。

中村委員長 前回の議論でそのところはあったんですね。ちょっと思い出していただけたら分かると思うんですけど、例えば視覚の過敏な特別支援関係の子どもがいた場合に、例えば光を遮る環境を考えながら指導をうまくできているかとか、聴覚の過敏な子どもとかも結構いるわけですけど、そういうことに関する配慮をちょっとした上で指導が構造的にできているかというようなところをはかる意味で、これを付け加えた方がいいのではないかという議論があって多分直したんですね。前回の指摘の流れで意識されて考えたんだと思うので、多分、現場の先生方の意識からこういう言葉にした方が実態に合っているというようなことだったと思うので、そういう感じで含めて捉えていただけたらいいのかと思います。構造的な改革なんだと思います。他にございませんか。

山下委員 ちょっと捉え方が違うかもしれませんが、案の探求を核とした個別最適な課題とというところの下に友達や先生と一緒にというところがあるんですけど、探求することを楽しむ、環境づくりによるという部分なんですけど、括弧書きの中が「絵本の読み聞かせやかたるた、しりとり等の遊びを取り入れる」というふうに書かれてありますけど、これを全部読んでいたら郷土を愛するとか、探求心を育てていくというところでは、やはり就学前の保育園では自然に触れるとか、全身を使うとか、五感の刺激を発達させるとか、水や砂や泥で思い切り遊ぶとか、そういうことを下地として、その上に子どもの方だったりということを積んでいけると思うんです。なので、ここになるべく、かたるた、しりとり、絵本の読み聞かせだけでなく、自然に触れて遊ぶ遊びとか、今だったら体験しに行ったり、どんぐりを拾ったりとか、そういうことで地域も知るし、学校へも行くしという部分を一つ入れてほしいなというふうに思いました。

中村委員長 検討していってもらえますか。

事務局 分かりました。

中村委員長 他にございますか。

尾形委員 探求のところに図書館が入ったことをすごくよかったなと思いますが、中に探求的な読書活動というのが出てきたので、探求的な読書とか探求的じゃない読書の区別は何だろうという若干疑問も感じました。冊子の方の39ページを見ると、レファレンスサービスのことが主に書かれていますので、そういったことを指標としてはかるとしたらレファレンスの件数でとか、そういったところもあるのかなと。貸出冊数だけで探求的かどうかというのをはかるのは難しいなという印象を持ちました。

中村委員長 これは無理やり探求という言葉をつなごうとしたんじゃないかというふうに邪推してしまうのですが、基本的に目立つべき方向性としては図書館の活動が多様になって、旧来の本を貸し出すというような活動だけではなくて、ラーニングコモンズを目指しているわけですね。多様な学習を保障するためのシステ

ムというのを。だからそれを標榜したような表現にさせていただけたらいいのかなと思うんですよね。多様な図書館活動の推進とかというような。多分そういうような意図でおっしゃられていると思うんです。

白川教育長
事務局 以前にも福田先生が言われていたように読書そのものが探求であろうと。ちょっと考えてみます。

中村委員長 かなり多様な形態になっているじゃないですか。人を集めてホールもあるわけなので、この間の科学館の貸し出しをとかを見てもやっぱり多様な形態で学習を進めるということなので、それが含まれているような表現にさせていただければいいと思いますね。図書館活動はとにかくこれまでのような用途ではなくて、かなり拡大しているのです。

上村委員 探求の指標のところですけど、(2) 番のたくましく生きる人間力を培う教育の推進のところの、右の資料のところの上から3つ目の①の埼玉県版全国学力状況調査のところですけど、5つの学力調査全てにおいて前年度よりも学力の数値と3以上いますというのがわかりますか。

中村委員長 これは分かりにくいですね。表現を変えた方がいいかなと思いますか。

上村委員 埼玉をイメージしているのかなという気はするけど、後ろの全国が付いていたりするので、ごちゃごちゃしてよく分からなくなる。

中村委員長 やられている方が1つの指標として埼玉の例でアンケートを書いてきてたので分かりやすかったというのが如実に出ていると思うんですけど、基本は市民の方は香美市型を読んでいるので、香美市がそれを使ってどういうふうに独自の分かりやすい指標でここを目指しているのかということを考えて表現していただくといいのかなと。埼玉型でやるのではなくて香美市としてはこうなんだということが入れば僕はいいのではないかと思いますね。

上村委員 あと、言葉をそろえるので最後の端のページの下から5行目のところの子ども科学教室のところ、小学生というのがあって、山田高、サポートとあって工科大生となるので、例えば小学生だったら山田校生とか、サポーターとかいう言葉で統一したらどうかなということは思いました。

中村委員長 そうですね。その上とかも学校の名前と大学生になっているので、書き方、表現の仕方を少し、ここの1のところの全体に関しては文章をそろえていただいた方がいいのかなというふうに思います。細かいところが出てきたので私も指摘しておきますが、2の市民一人一人がよりよく生きるまちの実現というのがあるんですね。こちらのA3の方では漢字の町になっているんですけど、こちらではひらがなになっているんですね。

事務局 ひらがなです。

中村委員長 まちという言葉がまたちょっと微妙で、未来を創る協働体とか市で町村合併でこういう形になったので、協働体とかコミュニティーとか、もうちょっと新しい香美市の協働体をイメージするような概念にした方がいいのではないのかなというふうにちょっと思いました。

それと、表現の仕方というところの方針1、「次世代を担う人材の育成」というのは言葉としては、ちょっとニュアンスが微妙じゃないですかね。人材が次世代になるのか、次世代社会を担う人材を育成するのかという、これは日本語として微妙に合っているようで間違っているようなというか、あいまいで少しよく分かりづらいですかね。多分、未来をつくるので次世代社会を担う人材を育成したいのではないかなと思うんですけど、ちょっとご検討、表現をもうちょっとブラッシュアップしていただけるといいのかなと思うんですけど。片仮名をあまり使わなくてウェルビーイングをやめたということなのでコミュニティはやめた方がいいんですかね。コミュニティは私は割といい名前じゃないかなと思ってんですけどコミュニティスクールとかというのもあるわけなので。市民の方にも分かりやすいのかなとおもったんですけど。

白川教育長

コミュニティは幅が自由な気がしますよね。

中村委員長

そうですね。小さな町単位から大きな市までというか。

福田委員

個人的にはひらがなのまちがいいのかと。

中村委員長

大分違いますね。町を書くのと街というのもあるんですけど。どちらの方がここで示しているのにふさわしいのかと。ちょっとご検討をお願いします。他にございませんでしょうか。

ちょっと前回、議論でご意見出されていたんですけど、文章にも3ページ目に復活しているので、全体の方の方針のところにも出ているんですけど、「よってたかって」について、これを使うということで、割と肯定的な意見も前回の議論であったと思うんですけど、このまま使われて3ページ目のところとかに出ているんですが、いかがですか。私は前回言ったように辞書的に悪い意味ではないので、否定されている意見をそのまま受け入れる必要はないかなとはちょっと思うんですけど、香美市の中でどの程度定着しているのかというのがるので、かなりここの教育の質を高めるために全体で頑張ろうというようなフレーズとして定着しているのであれば、そのまま使ってもいいのかなというふうには思うんですけど。

福田委員

16 ページのアンケートとかでも「よってたかって教育」というのも見ているし、それを保護者の皆さん 62%もちゃんと分かってくださっているわけなので、もう当たり前の言葉として認識した方がいいような気がするんですけどね。今から香美市の中から、この「よってたかって教育」という言葉を除けようとするのは不可能だと。よってたかって生涯学習フォーラムもある、何だかんだで出てきているのに、今さらそれはないでしょう。ここにきちんと「よってたかって教育」という理由ですよというのもし示しているわけで、そんなに悪い言葉でないし、むしろいい言葉だと思っている方なんですけどね。

中村委員長

前回出たんですけど、語呂とか表現定着度とかもそうだし、それからもしこれじゃない言葉でというのであれば、これに代わってもっと語呂がよくて、定着しやすいフレーズというのがあるのなら、それでもいいんですけど、今日まで

いろいろご検討いただいたんですが、あまりそういう案は出てきていないわけですね。上村先生がこの間、言われたみたいにキャリア教育のところで、このフレーズが出てきたときにストレートにうまく入って行って、構造が定着してきたというところもあるので、私としてもこれはいいのかなと思っているんですけどね。

上村委員

実は他の市町村の方からの意見を聞いたりしたときに、香美市はこの「よってたかって」という言葉を持っていることをすごく羨ましく言ってくれたこともやっぱりあります。すごくきれいな言葉で、こんなまちというのはよくあるのだけど、あまり耳に残らなくて、香美市は一貫してこれをいろいろなところで使っているということで、保護者と書いてますけど、保護者も増えていくので、これだけ根付いた言葉はないのかなというところで、もうちょっとやってみてもいいかなと自分は思っています。

中村委員長

その方向で考えていただいて、市議会の方にもお答えできるように、教育長が大変だと思いますけど。イメージ的には新しく香美市に住んで子育てされようとしていて、いろんな世代が育っていったときに、どの状態になっても皆さんが助けてくださって支援するようなシステムをイメージしていただくと、すごくいいんじゃないかなと思うんですよ。

ちなみに、高知県は人口減少が大変な状況になっているんですけど、今年は去年よりさらにかなり少なくなっているんで、子どもの数は4,000を切ったりとか、高知市内でも2,000を切るとかというような状況になっているんですけど、香美市や香南市の場合は凸凹はあるんですけど、いろんな軽費が抑えられるところがあるのかなと思っているんですけど、出生数のデータだけじゃなくて細かい人口動態を分析してみると、結婚して子どもを持っている人たちだけで分析をすると、高知県の周辺の市町村の出生率は1.96ぐらいあるんですね。どうしてそんなに1.4ぐらいに下がっているのかというと、高齢化とその後の子育てのしにくさで移動して出てしまうというところがあるんですね。だから、うまく定着してくだされさえすれば2に近くなる状況というのがあるので、やっぱりきちんと分析すると、そのところの手立てが打てていないことが問題なんです。それをきちんと打っていく市町村であれば、ちゃんと克服できるんだと思うんです。それが高知県の場合はできていないんですよ。それをきちんとやっていくためにも、こういうフレーズが要るんだろうなと私はちょっと思っている。やる市なんだというのを出していただければいいのかなと思います。他にいかがですか。

前回、美術館とかスポーツの件もちょっとお聞きしたんですけど、今回の表現とかを見てどうですかね。スポーツもやられている方が少なくなってきたというようなデータがあったと思うんですけど、子どもの参加率からお年寄りになって体を動かす機会の維持まで考えたときに、表現とか構想がこれでいいのかどうかですね。

福田委員 それでいくと、生涯学習の状況の中で図書館と文化財だけなんです。そこにスポーツとかのデータがなかったかなと思っているんですけど。ちなみに20、21 ページは逆に細かい。図書館の貸出冊数の後に文化財活動、図書館は図書館でまとめて20 ページにもってきて、一番最後に文化財活動、取り組みの参加とかいうのがあるので、これは逆がいいと思うのと、この後に生涯スポーツ関係の何かデータとかが挟めたらスポーツももうちょっと出るのかなという気がするんですけど。何かアンケートでもありましたよね。

中村委員長 21 ページのポートフォリオを見てもらうと、生涯スポーツのところの充実度は満足度が低いし、文化芸術の方もぎりぎりのラインですね。そうすると、これに対してどういうふうな政策を打って、ここの部分を盛り上げていくかということに関する表現はあってもいいのかなとちょっと思います。香美市に限らず全国的なデータとか高知県のデータを見ても中学校、高校とかでスポーツをやっている割合というのは高いわけなんですけど、大学に入って急に落ちていって、社会人になって全くしなくなるというのが日本の全体の構図なんです。これは結局、労働をし始めるとスポーツをする機会というのがだんだんなくなっていって、近隣で十分な機会が与えられるだけの条件がそろっていないというのもあるんですけど、労働時間の長さとか、休みの少なさとかという問題も同時にあるわけですね。両方のところを考えた上で、それに合った形で市がどういうふうな環境とシステムを提供できるかということなんだと思います。文化芸術も非常に大事なところかなと思っているんですけどね。

福田委員 昔、香美市にもクラブ香美というスポーツの組織をつくったんですけど、震災で全部飛んだんですけど、そのとき私はメンバーだったんですよ。どうやってスポーツをという中で、一番の問題は大きい箱がないというのがあったんですよ。大きな体育館があればとかいうのはあって、そういう物理的なものはしんどいよねという話になって、じゃあ公民館活動の中でのヨガであるとか、ちょっとスポーツを入れていくという活動をしていたんですけど、そこがもうなくなってしまったので、その辺をお手伝いできていないというのは実感としてあるんですけど、あとやっぱりスポーツという言葉がハードルが高いんですよ。お散歩でいいと思うんですよ。生涯的にずっとお散歩することでみたいな。文化財のウォーキングに参加されたとか言ったじゃないですか。あれも文化財活動にも入るけどもスポーツ活動でもあるというふうに捉えていけば、もうちょっとハードルが下がるのかなと。企画するイベントも、サッカー大会とかマラソンとか普段やっていないとハードルが高いんですよ。そこらをもうちょっと、ぴったりウォーキングとか、そんなのもいいし。今日か昨日か、高新で出ていたんですけど、フォトランだったかな、土佐市がやっていたんですけど、ああいう例えば写真に示された場所に行って、昔のオリエンテーリングみたいな形でもいいし、文化財とスポーツを融合させるみたいな形でできると思うんですよ。健康でいる状態をキープするという運動であれば。スポーツ、運動というところが何か一工夫あればいいのかなと思います。

中村委員長

今のご意見を聞いていて、ちょっと私は個人的に思うところがあるんですけど、市の政策でどこまで書き切れるかというのはご意見いただかないといけないと思うんですけど、例えば私は今は高知の方にキャンパスが移ってしまったので5～6年前に高知に転居してしまっただけですが、香美市に来てから10年ぐらい住んでいたときに前の課長から物部の方だったので、三嶺と一緒に登ろうと誘われて何度か登ったことがあるんですね。結構、私にはハードだったんですけど、でもちょっとはまってしまって、それからずっと登山をやっているんですけど、一カ月に一回ぐらい、今は京都とか東京の方まで登りにいったりもしているんですけど、三嶺も今年2回登っているんです。登ったら高知県内の山をきれいにされる方がボランティアで来られていたり、登っていて知り合いになった方とかとお話をしていると香美市はすごく山がよくて、きれいで、登れるんだけど香美市の人じゃない人がいっぱい登りに来ていて、ゴミとか片付けているんですね。何かもうちょっとふるさと教育とか、いろんなことを書いてあるのにスポーツとか、健康とかを維持するために特性を生かして、そういうシステムをつくるようなアイデアが入っていくといいんじゃないかなと思いました。

ちなみに、剣から三嶺にかけての横断をするのは、すごい日本中の人にうけていて、一番きれいなんじゃないかというふうに言われて、私は登山の会みたいなのでラインのグループを幾つか入っているんですけど、みんなに言われるんですよ。いつ行ったらいいかとか、どういうふうになっているかと。みんな簡単なので徳島側から登っているんですけど、あっちから登っても全然面白くないんですよ。実は物部から登るのが一番面白いんですね。ただ、物部から大栃、あそこへ行くまでが遠い、ここから大栃に行くぐらい距離があるんですよ。しかも私、7月末に行ったときに落石がすごく多くて、道にいっぱい大きな石が落ちていまして、全然片付けられていないんですよ。自分で歩きながら片付けていったんですけど、普通に行ってはどうにもならない状況なんですよ。でもそういうのをどれぐらい香美の人が知っているのかなと思っていて、あれは残念なことで、いい山があるのにきちんと整備されていなくて、しかも道もあんな状況になっていると車も危なくて通れないとか、ほったらかしになっているんです。そのようなこともちょっと考えて、今言われたようなことで純粋なスポーツ、野球とかサッカーとかいうのでなくて、ふるさとにある条件を生かして、みんなが少し楽しみながら学習をしていって、そこを守ろうかなと思うような、そういうのを幼稚園や保育園のときから身近に感じさせるような教育が持続しているといいのではないのでしょうか。大学生を無理やり連れていったことがありましたけど、そういうのにつなげていっていただけたらすごくいいのかなと思うんですよ。そういう発想で何かこの部分を書き加えるというようなことがあるといいのかなと思いました。

事務局

登山は難しいなと思ったんですけど、探求ウォーキングを拡大させるということとは可能かと思うので。

- 中村委員長 登山とまではいわなくても、そこら辺りを回って、ちょっと山道をきれいに
 するとか、近場の実態を見るとか。
- 福田委員 結構上がらないとけない、僕は山は苦手なんです。結構、体は動かすんで
 すけど山登りは苦手で、奥さんは好きでいつも怒られるんです。
- 中村委員長 一回、山嶺に行って帰ったら5キロやせるんですよ。
- 白川教育長 物部町には今も現役の登山家の方がたくさんおいでるんです。でも30代、
 40代かという、そうではないので、今のうちに登山の楽しみを子どもたち
 にしっかりと伝える取り組みをしたいと私もすごく思っているところなので、
 ぜひそのご意見は生かしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いをしたい
 と思っております。何といたって国体の舞台であったところですので、本当にいいご
 意見をいただいたと思っております。やります。よろしくお願いたします。
- 中村委員長 本当にいい山がいっぱいあるので勿体ないですね。
- 白川教育長 いろんなコースがあると言ってくださいました。
- 事務局 市民大学で勉強したりして、またその辺りも。
- 福田委員 僕でも行けるコースにしてください。
- 事務局 滝めぐり、大荒の滝とかあつたりします。
- 福田委員 それはいいですね。
- 山本委員 文化芸術のところではA3の資料の方の指標のところ追加していただいて、
 外部団体等と関連づけた企画展の推進というのを追加してもらってよかった
 かなと思ったんですけど、今回の方の45ページに香美市は、あえて書いてい
 ないのか、皆さんご存知ということなんでしょうけど市立美術館を持っている
 ということをどこかで書いた方がいいのではないかなと思っております。
- 中村委員長 そうですね。ずっと気になっているんですけど、他の問題も。ちょっと何か
 入れてもらおうと。
- 福田委員 市内で芸術文化に触れる機会を充実させるときに、やっぱり美術館とかいう
 のが大きな役割を果たしてくれることになるんですよ。体験する機会を市立
 美術館を中心に提供するとかを入れたら、それでいいんじゃないですか。
- 事務局 博物館もありますし、いろいろあるので、追加していきたいです。
- 中村委員長 持っているリソースを十分に活用してもらって。
- 福田委員 そんなところは子どもたちはどのぐらいに入れるんですか。県のやつは高校
 生まで全部ただですよ。と考えると香美市はただのような気がするんですけ
 ど。やっぱり小さいときにそんなものに触れると大人になってもというのは。
- 事務局 高校生が無料ですね。
- 中村委員長 美術館を持っている市は少ないですから、ぜひそこはうまく活用して文化芸
 術活動を教育の●●に位置付けていただいて。他にございませんか。大体、前
 回議論した内容のところはご議論いただいた方向で修正されているように思
 うんですけど、今言われたようなことに対して何かございましたら。
- 福田委員 1つだけ微妙なところを言ってもいいですか。学園都市というところ、46ペ
 ージに主な施策のところ「香美学園都市の充実」という言葉、それから1ペ

ージの「探求あふれる学園都市」、まちというお話もしましたが、学園都市というのは何なのかというところがちょっと見えにくいんですね。この言葉をどこまで使い続けるかなというのがちょっとだけ思っているところはあります。施策がこの後を見ても学園都市というのは、いっぱい学校があるから学園都市と言っているだけかなみたいなところがあるので、今回だけじゃないんですけど、そこは使い方をどうするかというところがテーマとしてあるのかなと。主な施策でこれを入れていいのかなと思って気にしていて、一番最初を見ると学園都市があるしなと思って。探求あふれるまちでもいいのかもしれないですけどね。

中村委員長 最初に教育振興基本計画を最初につくったときに私も今の教育長とか随分アドバイスをしたんですけど、やっぱり保育・幼稚園から特別支援、高校、大学、大学院まで持っている市は高知市以外で高知ではほぼないわけなので、最近ちょっとずつ出てきたりもしていますけど、本当に本格的な大学院までが、そこに住んでいられる方がいろんな形で目指したときに既にそろっているというような学園都市構想というのをぜひ入れた方がいいということで考えていただいたんだと思うんですね。どういう学園都市を目指すのかというのは、あるべき姿だと思うんですね。例えば高校とかの活性化を通じて小中高とか大学とかの継続もどういうふうなイメージで町全体の活性化を図るかということも必要なんだと思うんですね。そういうのが全体を読んだときに出てきて、これがこの5年間とか10年間で出している学園都市構想なんだなというのが分かるようにしていただけるといいのかなと思うんですけどね。何回も言うんですけど、市町村単位で、教育委員会で教育振興基本計画をつくると、その守備範囲で小中を中心にそこだけ書くようなイメージがあるんですけど、香美市の場合はそれでは駄目で、保育所から大学院まで持っているから、その枠を超えて全体で協力しながら、自分たちの守備範囲でもあるけど、どううまく書くのか。それをどう市民に納得してもらって協力してもらおうかという表現の仕方が必要になるので、事務局としては大変とは思いますが、そこが香美市の持っている良さなので、それをうまく生かしてもらえるといいのかなと。つまり他の市町村で真似できないので、それがあって多分ここに来ることに意味があるし、ここに住んでいると大学まで通えるわけですね。選択の幅はすごく広くて、あらゆる要求に耐えられる可能性があるということなので、それをどう生かすかという書き方でつながるといっているのがあるんだと思うんですよ。そういうところが今、福田さんが説明されたみたいに分かりやすく書く。まちの活性化や住んでいる方の思いにつながるという教育になるといいのではないかと思います。

市原委員 1ページの目指す人の姿が4つ挙がっているわけですけど、一つ一つは非常にいいし、香美市はこういうところを目指していかなければならないし、上の最上位の理念に通じるものかなと思うんですけども、4つ並んだときに手段があったりということで、上の端に関しては3つ小さい取り組みがあるわけで、

この辺り若干違和感を感じてしまうので少し整理したらもっときれいなのかなと思うんですけど。

福田委員 今いじれるところはどこなんですか。ここはもういじれるレベルではない。
白川教育長 そんなことはないです。今ご指摘いただいているところは、確かにちょっとまだもやもやしているところではあります。これはほぼほぼ目指している姿というのは前回の人の姿をこれからもう少し強力に力を付けないといけないというものを追加をしてつくった最初からの3つ目と、4点目については郷土に愛着を持ち、社会を生き抜く人だけだったんですけども、最初の3つのような力を持つ人がどういう人なのかによってもこれからの社会が大きく違ってくると。人を育てるといのは質、能力を身に付けていく人自体が豊かでなければ、なかなかSDGSにしても、持続可能社会にしてもそれは現実、豊かな社会にはならないという考えのもと、豊かな人間性というのも非常にフアジーなので、これも検討しなければいけないかなとは思ってますけど国も使ってますのでいいのかなということもありますが、豊かな人間性を身に付けてというところは新たに、特にこのところがこれからますます大事だよという意味で付けたらどうかということではあります。幾ら主体深の技能とか、事が上手にできるようになったとしても生かす人間がどうであるかということをお忘れしない、だからこそ郷土に愛着を持って、グローバル社会をつくっていく人ということなので、ちょっと並びがまだ。

福田委員 全部この前提にありますよね。
白川教育長 全部ひっくるめて、香美市はこういう人に育ってほしいというのを並行した形で、並列的な感じで。

福田委員 豊かな人間性を身に付け、主体的でチャレンジ精神を身に付ける、全部に入るの、この言葉をもうちょっと前後概念的に捉える考え方もあるのかなという気はしますね。

中村委員長 ちょっと文章とか表現とかの問題じゃないんですけど、17 ページにある山田高校とか、工科大への愛着度とかいうのデータがありますよね。これは文章で書いてあるんですけど、保護者や小中学生、市民が愛着を感じる割合が高い傾向が見られていますと。保護者と市民は同じような数にならないとおかしいんじゃないかなと思ったんですけど。どうして一般市民の方が高くて、保護者の方が低いのかなと。小中学生はこれくらい知っているというのは分かるところもあるんですけど、これは文章表現ではそこは全然触れられないんですけど。

福田委員 保護者を卒業したおじさんたちが商工会でやっているということじゃないですか。

中村委員長 どんなイメージなんですかね。

白川教育長 今、入試制度が自由学区制になってきて、それ以前は山田高等学校というのは香美郡の土佐山田町以外の地域の人たちは高等学校といえ山田高校に進学するということになっていました。なので、市民の方たち。

中村委員長 お年を召した方が多いので、そういうことですか。

- 白川教育長　　そういうこともあるのと。
市原委員　　山田高校が普通科を中心に、ビジネス探求もそうなんですけども、やっぱり市へ出ていっているんですね。インターシップをやったりしていますので、市民からの愛着ということはあると思います。小中学生の保護者との関わりというのはあまりないのでこういったデータは。
- 福田委員　　それからいくと、中学生は結構、山田高校に愛着を持っている、何してるの、進学しないのかと思います。
- 中村委員長　　中学生から急に増えているというのはいいんですけどね。これはどう見るかということなんですけど、表現としてですね。
- 福田委員　　これは多分、アンケートデータを客観的にこうなってますというだけなんですよね。深掘りしてないですよ。深掘りすると何か面白いのが出るのかもしれないですけど。
- 中村委員長　　最初のところでご質問のあった学園都市構想に関わるので、それをどうやって表現するかということなんだと思うんですね。今後、市や教育委員会がどういう方向を目指しているかということが分かるようにということだと思うので。表現をどうブラッシュアップするかというのは皆さんからご意見いただかなきゃいけないんですけど、目指すべき学園都市構想のイメージが共有されたと思うんですけど、これがリソースがあるというところですかね。それに愛着を持ってもらって、ここに住むことにメリットがあるということをどう生かすかということなので、そこをどういう表現で書くかということですね。
- 他は大丈夫ですか。前回言われたそれぞれの守備範囲のところは大体よろしいですかね。
- 上村委員　　すごく細かいところですけどいいですか。7ページの全国学力・学習状況調査等の結果、全国学力データの総集のところでもいいですか。
- 福田委員　　僕もそれは何カ所かあるんですけど、構成レベルになってしまう。
- 中村委員長　　赤を入れて、あまりにも細かいところは出していただければいいんじゃないでしょうか。むしろ見付けていただいた方が助かりますから。グラフのデータが数値が同じなのにずれているみたいなのは何かというのはあるんですか。例えば10のところの2ページの学習フォーラムのデータとか、同じ3.8なのにずれてますよね。3.8、3.8と3つあるのに、ちょっとずつ違うなと思って。どうしてこうなっているかよくわかりませんが、これはエクセルデータで3.85とか、3.86とかになっているのがちょっとずつ違って出ているということですかね。表現の表し方はお任せしますけど。細かいところに関しては赤を入れて事務局の方に渡していただくということで。他に大丈夫ですか。事務局の方から、よってたかってのこと以外に何かご議論いただくことが別であれば。先ほどのご意見があったので、それを伝えていただければと思いますが、ないようでしたら司会進行のほうはお返しします。よろしくお願ひします。
- 事務局　　中村先生、ありがとうございます。次回の検討委員会につきまして、お知らせをさせていただきます。今回は年が明けまして令和6年2月の開催を予定

しております。次は次期教育振興基本計画の原案および概要版につきましてご報告をさせていただくこととしております。また日程調整後にご連絡させていただきますので、ご出席をよろしくお願いいたします。

それでは、閉会のあいさつを白川教育長からよろしく申し上げます。

白川教育長

長時間にわたり大変この計画に心を寄せて見ていただきましたことを、本当に心からお礼を申し上げます。まだ、この基本計画につきましては皆さんの思いをここに表現し切れているかという、なかなかそうですと言い切れないところも多々ございます。それを何とか時間の許す限り精査をして取り組むようにしていくことが大切だというふうに考えておりますので、いつでもご意見をいただき、また先ほどの目指す人の姿など、こういうふうにしたらすっきりするよとかいうご提案等もいただけたら大変うれしいかなと思っております。事務局の中でも推進監を含めみんなといろんなところを協議をしておるところでございますけれども、事務局の方もこれからいただいたご意見を参考にブラッシュアップしていきたいというふうに思います。本日はどうも長時間ありがとうございました。

閉会